

# 100周年記念事業準備委員会答申

平成29年7月1日

## 1 記念事業の実施に関する基本的考え方について

70周年、80周年、90周年記念事業の先例に学びつつ、次なる100年を見つめ、母校 大分大学経済学部将来にわたる発展を見据えて、同窓の「絆」をより一層強固にするという基本的考え方に立ち、12,000人の全会員が同じ思いを共有するよう、あらゆる機会をとらえて、啓発に努める。

## 2 記念事業の内容、実施の方法等について

### (1) 記念事業の内容

「100周年記念基金」(仮称)の造成、「100周年記念式典」の実施、「経済学部100周年記念誌」の発行、その他関連する事業を実施する。

事業の具体的な内容については、平成29年10月に設置する

「100周年記念事業実行委員会」が策定する100周年記念事業「基本計画、実施計画」に基づき、実施する。

### (2) 実施の方法

大分大学経済学部と四極会との明確な役割分担を決定の上、実施する。

平29.10.1「100周年記念事業実行委員会」発足

### (3) その他 経済学部との協議を速やかに開始する。

## 3 記念事業の実施のための「財源」の確保について

### (1) 募金についての基本的考え方

基本的に、少額であっても、長期間にわたって募金を推進し、関係企業や個人同窓会員が出損しやすいシステム・方法を構築する。

今回の募金は、100周年記念事業の実施のためにとどまらず、一般財団法人四極会の将来にわたる存続、活動に関わっているという基本的認識を醸成し、会員相互間において共有することが肝要である。

### (2) 募金の方法

平成29年度(平成29年10月)から、平成34年度までの期間

6年間にわたって関係企業、個人会員から募金し、また、本部レベル

だけではなく、各支部レベルにおいても6年間にわたる募金（支部積立金）を積極的に推進する。

この場合において、各支部からの寄附と、会員個人からの寄附とは、明確に区別するよう理解を求める。

### (3) 募金の受入れ窓口

例えば、「経済学部 100周年記念式典」挙行に要する経費については、国立大学法人である大分大学（経済学部）に直接寄附する（「記念式典」挙行に要する経費については、当該寄附ですべて支弁する。）という方法と、一般財団法人四極会に寄付するという方法の併用ということについても最終的には、税務当局と協議の上決定する。

## 4 記念事業の実施のための準備体制づくりについて

(1) 平成29年10月から、「100周年記念事業実行委員会」を発足（大分大学経済学部、四極会のメンバーにより構成）させる。

大分大学経済学部に、平成29年10月から大学側の「窓口」（母校教官 2人）を設置するよう要請する。

(2) 平成29年10月から、四極会の事務局体制を充実・強化する。

(3) その他必要な準備体制の整備に努める。

## 5 記念事業の実施に向けたスケジュール

平29. 7. 1 第9回評議員・支部長会議委員会から最終報告、承認

平29. 10. 1 「100周年記念事業」担当理事 決定

事務局職員1人 新規配置

「100周年記念事業実行委員会」発足

100周年記念事業「基本計画、実施計画」策定作業着手

平30. 7. 上旬 第10回評議員・支部長会議

100周年記念事業「基本計画、実施計画」決定

平30. 7. ～平34. 3

100周年記念キャンペーン、募金その他、100周年記念事業「基本計画、実施計画」に基づく事業の開始

平34. 4. 1～ 順次、関連事業実施

平34. 6. 「経済学部 100周年記念式典」挙行

平35. 3. 「経済学部 100周年記念誌」発行

□ 100周年記念事業準備委員会

委員長	理事	帆 足 三 郎 (大13)
委 員	別府支部長	此 本 英一郎 (大14)
	(副会長) 大分支部長	高 井 道 晴 (大21)
	理事	三 浦 洋 一 (大24)
	理事	玉 井 鉄 之 (大25)
	青雲会会長	木 本 英 光 (大25・院1)
	大分市役所支部長	杉 崎 悟 (大30)
	大分支部副支部長	高 野 浩 子 (大34)